

制限下でも長寿の祝いを

はんの木だより

2022年10月

第86号

社会福祉法人美土里会
青森県上北郡七戸町寒水 70-17
電話 0176(62)2761
http://midorikai-gr.or.jp
発行人：盛田薫

特養で敬老の表彰行っ



特別養護老人ホーム美土里荘

九月二十八日、特別養護老人ホーム美土里荘にて敬老会を行いました。

以前はご家族の方にもお越しいただいた上で開催していましたがコロナ禍で断念。残念ながら今年も職員とご利用者のみで行いました。

まず盛田薫理事長からのお祝いの言葉のあと、百寿・白寿など区切りの年齢を迎えられた方にお祝いの表彰状と記念品が贈られました。緊張して受け取られる方もいれば、名前を呼ばれて「え、私が？聞いてなかった」と驚かれた方もいました。皆さん賞状を受け取り大切そうに抱えられていました。

表彰の後は職員アトラクション。女性職員によるヒゲダンスの音楽が流れるとご利用者は「誰だ？」と不思議そうな感じでしたが、職員に誘われるままに前に出てアトラクションに巻き込まれると笑顔に。風船がなかなか割れず、会場と一緒になって大笑い。また、男性職員は脱出マジックショーを披露。大きなボールに職員が入り、その箱に棒を何本刺しても無傷で（しかも着替えて）脱出するというもの。会場から指名を受けたご利用者がどんどん棒を刺して行きます。中には



「おりゃ！おりゃ！」と言いなから力一杯に何度も棒を刺し「ハア死んだぞ」と話し、会場を笑いの渦に巻き込んだ方もいらっしやいました。もちろん、たくさん棒を刺した後、箱から着替えた職員が登場した時は、皆さん喜んで拍手をさっていました。

アトラクションの後はささやかながらケーキを食べてお祝い。コロナ禍で様々な制限がある中でしたが、少しは楽しんでいただけたと思います。

本当におめでとうございました。また来年、同じ顔ぶれでお祝いしましょうね！

デイサービスセンター 梓



デイサービスでは毎月その月の誕生者をお祝いでいます。ご本人了解の下、黒板でお知らせしますが、「今日は六人いるね」「私と同じ年だな」「あの人が誕生日だって」と皆さん興味津々で話題にされています。お一人お一人、皆さんの前で紹介させていただき「好きな食べ物は何ですか」「結婚された歳はおいくつだったんですか」「どんなお仕事をしていましたか」等、質問すると「刺身が好きだ、団子が好き」「20歳で結婚した、相手の顔も知らないで結婚式で初めて知った」「米を作った、野菜を沢山作った」「お菓子を作っていました皆様にはお世話になりました」など、昔の思い出などを恥ずかしそうに話されていました。誕生日の歌の後はお待ちかねのプレゼントタイムです。籠に入れてある沢山の物から一つだけお気に入りを選んで頂いています。「えーっと



グループホーム 櫟

「おれがいいかな」「私はこの靴下がいい」「おれはマグカップがいいな」と楽しみながら選んでいたでいています。プレゼントの後は誕生者に歌のプレゼントタイム。そうです。カラ・オ・ケです。大好きな懐メロをみんなで大合唱しています。声を思いっきり出すことは体にいいですね。



コロナ禍ではありますが、お天気などの状況を見てドライブに出かけたりしています。桜の時期は十和田市方面へお花見ドライブに出掛けて来ました。ちょうど満開の頃に行く事ができ、車の窓から景色を楽しみました。別の日の昼食時にはドライブの後にお寿司と天ぷらセットの弁当を食べ、「美味しかった」と笑顔で喜ばれる様子が見られました。

また別の日には、近所のジェラートNAM I KIにドライブへ。菜の花をバックに写真撮影。窓からの景色も楽しみました。

その他、時間を見てミズノの皮むきや季節の飾り作りを職員と一緒にしています。皆さん上手に行う事ができていました。これからも少しずつ時間をみながら、皆でできることに取り組んで行きたいと思っています。



美土里会

十月二十六日、避難訓練を行いました。今回は消防署の立ち会いがない自主訓練でしたが、参加職員は一樣に緊張した面持ちを見せていました。

十五日頃、施設内にサイレンが鳴り、夜間想定避難訓練が開始。各自定められた役割に基づき行動しました。非常放送を流して避難本部を立ち上げる職員、火元を確認する職員、エリア毎にご利用者を誘導・介助する職員、依頼を受けて他事業所から駆けつける職員…。参加した職員は皆、迅速な行動を心がけていました。

当日は非常に外が寒かったため、屋外ではなく屋内の規定の場所へと移動。約二十分の訓練でしたが、緊張のせいか背中汗をびっしょりかく職員もいたほどでした。

美土里会では年に数回、避難訓練を行っています。もちろん火事や災害などないに越したことはありませんが、イザという時にしっかり行動できるように、訓練は欠かさず行っていきます。



特別養護老人ホーム美土里荘

各事業所で毎月「ケア会議」などと呼ばれる職員会議を開催しています。主にはご利用者の状態や情報の共有、介護計画の見直しや評価、勉強会などです。

毎月最終水曜日、特別養護老人ホーム美土里荘でもケア会議が行われています。この日は盛田副園長からの講話、各居室担当者からの利用者情報、リーダー



員会主催の勉強会を開催。おむつ交換の際の使い捨て手袋の使用・破棄手順について実演が行われました。普段、毎日行っているおむつ交換ですが、適切な手順で行う事で感染症のリスクを減らせることを改めて学びました。これからは随時、普段の業務の見直しや点検を行い、サービスの質の確保に努めます。

障害が障害でなくなるために

私たちがすべきこと



『はんの木だより』の文字、一般的なフォントとは少し違ったものだと思いますか？

このフォントはUDデジタル教科書体というものです。従来のフォントより文字そのものの形を認識し易くなっており、弱視や失読症・識字障害といった学習障害がある人でも読み易いフォントと言われています。UDとはユニバーサルデザインのこと。多様性に富んだ現代に広く対応するため創り出された「発明品」です。

フォントや書体をデザインする職業であるタイプデザイナーの高田裕美さんは、ツイッターでこのような投稿をしていました。

今日、訪問した支援者の方から「UDデジタル教科書体」に変えたら、今まで文字を読めなかった子が「これなら読める！オレはバカじゃなかったんだ……」と言って、皆で泣いてしまったという話を聞いた。その話を聞いて、書体が手助け出来たことの嬉しさよりも、その子が今まで背負ってきた辛さ、自分をバカだと思ってしまうほどの切ない体験をどれだけしてきたのかと、今まで放置されてきた書体環境に胸が締め付けられ、タイプデザイナーとして申し訳ない気持ちでいっぱいになった。きっと書体を変えただけでなく、支援者の方が子どもに寄り添い、その子が読みやすい組版を提供したのだろう。支援者の方が沢山の書体の中から「UDデジタル教科書体」を見つけ、うまく役立ててくれたことに頭が下がる。「障害は人がもっているのではなく、社会にある」ということを実感した話だった。その子が、これをきっかけにこれから一つ一つ自信を取り戻してくれたら嬉しいな。

- Yumi Takata @yumit_419

かつて近視・遠視・乱視は「障害」で、眼の見え辛さは生き辛さといコールでした。ところが眼鏡というものが発明され、日常生活に支障がなくなりました。今ではファッション性も高くなりメガネは個性となり得ています。眼鏡の発明により、障害が障害ではなくなったのです。

UDフォントにしる眼鏡にしる、障害者を取り巻く社会が変化・変容することによって障害が障害でなくなり、その人らしい生活が送れるようになるということ。私たちが利用者のメガネとなりUDフォントとなり、少しでも「その人らしい生活」「今までの生活」に近づけられるようなサービスを提供する事が肝心だと思えます。理想論かも知れませんが、そのスタンスを失っては『福祉』とは言えないでしょう。

私たち介護・福祉関係者も同じ姿勢が求められます。介護サービスの利用者は、様々な病気や障害により「その人らしい当り前の生活」が送れなくなった高齢者です。放っておけばその人の生活は失われたまま。私たちが利用者のメガネとなりUDフォントとなり、少しでも「その人らしい生活」「今までの生活」に近づけられるようなサービスを提供する事が肝心だと思えます。理想論かも知れませんが、そのスタンスを失っては『福祉』とは言えないでしょう。

地域・社会貢献事業

やっています！

美土里会では、地域・社会貢献事業として様々な取り組みをしています。少しだけご紹介。



十月二十五日「他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会」が青森県立七戸高等学校で開催されました。この取り組みは、次代を担う子どもたちが、命を大切に他人への思いやりをもち、たくましく健やかに成長することができるよう展開している「命を大切に心を育む県民運動」の一環で、青森県青少年・男女共同参画課が主導し開催されました。

集会には一学年の生徒一〇七名と地域住民二十一名、八戸学院短期大学生二十名程度が参加。県からの依頼により、特養の盛田副園長と千葉相談員が地域住民代表として出席しました。



集会では、認知症が進んで物を隠したり探せなくなった「祖母」を嫌がっていた中学生の「ぼく」が、ふとしたきっかけで「祖母」が書いたノートを読み、「祖母」が悩みや苦しみを抱えていた事を知った…というストーリーを紹介。最後に「祖母」が一人で草むしりをしているところに「ぼく」が寄り添ったシーンを取り上げ「この時、ぼくはどんな気持ちだったでしょう」とコーディネーターが投げかけると、グループ毎に様々な意見が出されました。他にも、競泳の池江璃花子選手が白血病で苦しむ中から復帰を目指すように気持ちが上向きになった事を紹介。「なぜ、池江選手は復帰に向けて前向きになったのか」について自由闊達に意見を交わしました。

高校生からは「今までただ嫌っていた『祖母』のことを理解しようとしたのでは？」「今までのことを申し訳ないと感じたのだと思う」など素直な意見がたくさん。中には大人顔負けの意見を述べる高校生もおり、参加した二名も大いに気づきと学びがあり「良い刺激になった」と話していました。

これからも、地域社会の依頼やニーズに応え職員を派遣するなど、協力・貢献に努めたいと思います。

編集後記

例年であれば、行き当たりばったりのドライブ旅行に家族でよく出かけていましたが、コロナ関連で全く出掛けることもなくひたすら家と職場を行き来する毎日です。たまに旅行雑誌を眺めては、子供たちと思ひ出話をしてみたり今度はここに行きたいねと話してみたり。ウィズコロナの生活様式が一般的になり、また色んな所へ愛車で旅に出れる日がくれば良いなあと思う今日この頃です。(千)